



図2：コスタリカの地図



図3：コスタリカの国旗

国名	コスタリカ共和国 Republica de Costa Rica
面積	5万1095m ² (九州と四国を合わせたくらい)
人口	400万(2001年現在)他にニカラグア難民が10%以上永住
首都	サンホセ San Jose (人口50万人)
民族	スペイン系を主とする白人とその混血95%、黒人3%、先住民2%
宗教	ローマカソリック85.3%、プロテstant他14.7%
言語	公用語はスペイン語。ホテル等では英語が通じる。
時差	日本より15時間遅れ。サマータイムは採用していない。
通貨単位	通貨の単位はコロン(C)。*米ドルも使用可。 補助単位はセンチモだがほとんど使われていない。
換算レート	US\$1=約C500
通貨の種類	お札:10000, 5000, 1000, 500, 200, 100, 50 硬貨:100, 20, (10, 5) 等が使用されている。

表1：コスタリカの基本情報

●大使から見て、コスタリカの魅力や特徴は何ですか。

コスタリカは平和と人権を尊重し、現在統所有の禁止に向けて制度を確立する努力をしています。さらに、コスタリカは医療技術も発達してきており、現在では日本と同じ平均寿命の水準まで上がっています。また、ニカラグアやパナマにおける紛争が相次ぐ中で、コスタリカは中立を守つたことから、現職のアリアス大統領はノーベル平和賞を受賞しています。何より、コスタリカは海も火山もあり自然が豊かな国です。鳥類の数はアフリカよりも多いのです。カナダ、アメリカ、メキシコに生息する鳥類は34万8千種ですが、コスタリカは一国で95万2千種の鳥が生息しています。ケツァールはコス



写真2：大使であるマリオ・フェルナンデス・シルバさん

説明をしておきたいと思います。

「コスタリカ」という名前は「豊かな海岸」を意味しています。その名の通り、カリブ海と太平洋に挟まれたコスタリカの海は豊かですし、火山だってあります。むしろ「豊かな山海」と名付けた方が適切かもしれません。

またコスタリカはその素晴らしい自然に加えて、治安がとても良いことで有名です。ですから、観光国として最適であり、実際にコスタリカ産業の一角を担っているのが、まさにこの観光業なのです。ただし、自然が豊かとはいっても、現在では電気製品や繊維製品などの工業品による貿易も盛んです。勿論、バナナなどの農業製品も多く輸出されており、中でもコスタリカのコーヒーはとてもおいしいことで有名です。

(大使もコーヒーがお好きだそうです)。

さて、いらっしゃった大使は穏やかで思慮深そうな人でした。それもそのはずで、大使はコスタリカ大学の国際法学部の教授を40年間つとめていらっしゃるそうです。なので、大学生の僕達をとても歓迎してくれました。しかし、さすがにスペイン語での会話はできないので、秘書の乾さんに通訳をお願いしてインタビューを始めることにしました。

大使館と聞くと外交上の施設であり、どうも敷居が高いイメージがあります。確かに日本国内にありながら、外国の法律が適用される辺り、学生の僕達には近寄りがたいものがあります。しかし、実際に訪れて大使のお話を聞いてみると、驚くほど歓迎していただけますし、思つた以上に気軽な訪問だったことに気付きました。訪問の予約もホテルみたいにスケジュールさえ合わせられれば、二つ返事で快諾をいただけるくらいなので、さしてややこしい手手続きもいらず、案外身近に感じられるものです。

コスタリカ大使館は六本木にある建物の一室にあります。このビルは他にも前回のインタビューで訪れたパナマ大使館など、他国の大使館がひしめいている建物であり、大きく居を構えたドイツやオーストラリアの大使館と比べて



図1：コスタリカ大使館の所在地

も、どこか親近感の湧く立地になっています。大使館に入る時でも、ドアの横にあるインターホンを押してドアを開けてもらうことになっていて、人のお家にお邪魔させていただくような気分でした。



写真1：コスタリカ大使館のロビー

挨拶をした後、今回通訳をしていた乾アビオラさんが大使であるマリオ・フェルナンデス・シルバさんを呼びに行きました。その間に、コスタリカという国がどういう国なのか、

外国語学部 英語英文学科4年 今村 豊
経済学部 経済学科4年 渡辺慶太

神大生が行く、東京の大使館めぐり —コスタリカ編

ですが、現代におけるイラクの侵略あるいは占領は、技術的に進歩しても、ゲリラ戦術がベトナム戦争の時のように効果的であることを表しています。過激なイデオロギーを「和らげる」ことに力を注がなくてはいけません。武装介入は過激なイデオロギーを助長するだけです。勿論、未だに政府が市民を弾圧しているケースもありますが、現代におけるイラクの侵略あるいは占領は、技術的に進歩しても、ゲリラ戦術がベトナム戦争の時のように効果的であることを表しています。過激なイデオロギーを「和らげる」ことに力を注がなくてはいけません。武装介入は過激なイデオロギーを助長するだけです。勿論、未だに政府が市民を弾圧しているケースもありますが、



写真4：左から大使、大使夫人、通訳の乾ファビオラさん

コスタリカと日本は15時間の時差がありますので、向こうと連絡を取るために午前四時に起床します。向こうでは午後一時になります。Skype（注①）を使ってあちらと連絡を取つておきます。それからBBCのニュースをチェックします。したあと、家族と会話しながら朝食を摂ります。九時には大使館へ向かい、領事とその日のスケジュールをチェックします。お昼ごはんはあまり外へ出歩かず、館内でお弁当を食べることが多いです。というのも八月に日本に来たばかりでまだ慣れていないためです。例えば、今日はこれから外務省へ行き、ICC（国際刑事裁判所）において日本の斎賀富美子さんが人權担当大使・国連女子差別撤廃委員会員の補欠候補として選出されることを支持するか否かの会談を

●大使の一日のスケジュールを教えてください

行う予定です。

● 大使ことひでエコツーリズムの魅力とは何ですか
えるのが素晴らしいと思います。

何ですか。
コスタリカは難民が多く、平和尊重の觀点から彼らを保護していますが、その話から緒方貞子さんとお会いできましたし、色々な方と出会

航空機の飛行による損害はあります、それでも人工的な美しさではなく、自然のままの美しさが際立つことです。地球温暖化は世界規模ですか。

●日本の学生をどのようにお思いですか。
はじめて責任感があると思います（ちなみに日本で生活した経験のある通訳の乾さんは「それは実態と違う」と苦笑いをされていました）。
若いうちは勉強をして、大人になつてから遊ぶのがいいと思いますよ。

大学の民営化が続いていくと思います。それはつまり、教育普及に向けてのより大きな挑戦を意味します。自由貿易によって、より多くの教育計画が、海外の製品や製造会社を促進しました。ちなみに、外国語では英語教育に力を入れているところです。

●コスタリカの永世非武装中立宣言についてどうお思いですか。

についてはどうお思いですか。

二カラゲアからの難民が多く、国民の半分は二カラゲア人です。しかし罪を犯した人の流入を許してしまうこともあります。中にはスリや殺人を犯す者もいます。特にスリは日常茶飯事なので物を盗られてもそれほど騒ぎになりません。

●今コスタリカで流行っているものは何ですか。

コスタリカの人々は基本的に踊ることが大好きなので、毎日のように踊りに行きます。今はレゲトンが流行りの音楽です。勿論、ポップスもみんな聴きますし、サルサやメレンゲなども聴きます。mp3プレーヤーはまだ日本のように浸透していません。日本の話題というと、コスタリカでも浜崎あゆみなどは聴かれています。また、日本のマンガはとても人気で、日本

のマンガを読むために日本語の勉強をする人もいるくらいです。『ドラゴンボール』や『犬夜

叉などアクション要素の強いマンガが人気です。

世界の問題について関心を持つていただきたいと思います。日本の方々はとても高い技術を



写真5：館内にある国旗

す。コスタリカは小さい国ですが、日々、民主主義の維持に努め、国民が結束して平和を守るうとしています。また、基本的人権を尊重するだけでなく、地球温暖化など、この地球全体の問題、つまり私達全てが直面している問題にも意識を向け、それに対処しようとしています。日本も是非そのようにしていただければ嬉しいです。

その他にもコスタリカの民族楽器がマリンバであるとか、大使の趣味である写真の話について

問題、つまり私達全てが直面している問題にも意識を向け、それに対処しようとしています。日本も是非そのようにしていただければ嬉しいです。

この国に何があるのだろう、という疑問すら浮かびます。

同様に、コスタリカの永世非武装中立宣言についても、日本の持つ「戦争放棄」の原則と通じるものがあり、大使が語って下さった言葉に考えさせられます。今回コスタリカ大使館を訪問させていただいた理由の最たるもの、このコスタリカの永世非武装中立宣言と日本の戦争放棄に通ずる特殊性です。現在コスタリカの大統領に就任しているアリアス大統領はまさしく

認する時期が来ているのだと思います。そのための議論であつて欲しいし、決して平和の意義を歪めるための口実として今現在の議論が利用されはなりません。だからこそ、国民はこの議論の推移をしっかりと把握し、自分の国の平和への態度が果たしてどのようにとられるのかを監視する必要があるでしょう。

長くなつてしましましたが、大使の話から得られたものはそれだけ大きい意味を持つていた

ということだと思います。違う国であるというところから始まり、互いの国を比較して、最後には自分の国を見つめ直すことになる。相手の国に横たわる問題を他人事として片付けられない共通項のようなものがあるからこそ、こうして自分の国と照らし合わせて考えることができると同時に、そうした共通項を見つけていこうとするところですが、何より「異文化」を考える上で必要なことなのだろうと思います。

ただ勿論、大使館に行つたからといって、別に難しいことを考えに行く必要は全くなくて、他の国の文化についての話を聞きに行くだけで充分行く価値のある場所です。気軽に訪れることがありますし、当の大使館の方々も皆さん暖かく迎えていただけます。挙げ句、コービーまで出していただきたりして、とても気さくで親切に対応していただけるので、それほど抵抗を感じる必要もないでしょう。僕が外国へ行きたいと思う方がいたら、是非その国に行く前に大使館で話を聞いてみるといいと思います。

なにせ現地で暮らしてきた人々ですから、なによりもリアルな情報が聞けます。また、大使館では年間通じて多くのイベントを企画しています。

形式のようなイベントもあるので、そうした機



写真6：最後に記念撮影

※写真撮影及び取材日時

2007年11月1日 東京都港区西麻布4-12
・24第38興和ビル901コスタリカ大使館にて

※注釈

①Skype ルクセンブルクのSkype Technologies社が提供するインターネット電話の無料ソフトウェア。遠距離通話・国際通話の料金がかからないことが最大の特徴。

※参考資料

ケツァール写真館

http://www.tekipaki.jp/~texbird/quetzal_galary.htm

コスタリカ政府観光局日本事務局

<http://www.costarica.co.jp/>

(図2、図3、表1をjiraiより転載しました)

※邦訳協力

神奈川大学外国语学部国際文化交流学科教授

鳥越輝昭

神奈川大学外国语学部英語英文学科助教授
師岡淳也

て伺うことができました。少ない時間でしたが、多くの話を聞いていただきとても意義のある話を聞くことができました。

中でも意外に感じたのは、コスタリカにはいじめがないということです。今の日本ではいじめがこれほど頻繁に起きて、報道までされているのに、それが全く無いというのは、虚を突かれた思いでした。日本国内の事情だけ見ていては解りませんでした。国が違うというだけでそこでも違うものなのだと痛感しました。国が違いでいじめが無くなるのだとすれば、いじめは別に人間の本質的な部分から生まれる行動です。逆に、いじめの無い国すらあるというのに、いじめを苦にして自らの命を捨てる人間のいるこの国に何があるのだろう、という疑問すら浮かびます。

コスタリカの平和の理想を貫いたことでノーベル平和賞を受賞した人物です。今もコスタリカに平和の理想が生きていることの証でもあります。紛争の歴史を持つニカラグアやパナマと隣り合わせになりながらも、中立の立場を表明したコスタリカは今も変わらずに平和の理想を掲げ、身をもつて訴え続けています。しかし一方の日本ではこの平和の理想、つまり「戦争放棄」の原則が動搖する時期にさしかかっています。自衛隊の権限拡張に関する法案について、今現在も喧々囂々の議論がなされています。勿論、平和について語ることは易く、平和を営むことこそが今問題なのであって、戦争放棄の態度を表明したところで、武力による介入が行われてしまえば、全ての表明は嘘でしかなくなります。そうなる前に日本も平和を営む術を改めて再確認する時期が来ているのだと思います。そのための議論であつて欲しいし、決して平和の意義を歪めるための口実として今現在の議論が利用されはなりません。だからこそ、国民はこの議論の推移をしっかりと把握し、自分の国の平和への態度が果たしてどのようにとられるのかを監視する必要があるでしょう。